

ドクター板東の メディカルリサーチ

Vol. 18



～ワクチンは人命救い国までも～

<http://hb8.seikyou.ne.jp/home/pianomed/>

いま、麻疹（ましん、はしか）が流行している。すべての授業が休講になつた大学もあるほどだ。経済的にも大きな損失と言えるだろう。本来、子供の病気だが、なぜこのような事態になつたのだろうか？ 今回は、感染症やワクチンについて述べてみたい。

「はしか」は恐い

あなたは「はしか」に、どんなイメージを持つているだろうか？ 「すべての子どもにうつる病気で、一度罹つて免疫ができたら大丈夫」。また、「若者がバイクやロック音楽にのめり込むのは、「はしか」みたいなものだから、心配ないよ」などと、表現する人もいるだろう。

しかし、これらは間違っている。麻疹は子供だけでない。大人でも感染して発病すれば、高熱が1週間前後も続く。さらに、肺炎や脳炎などの合併症も起こり、現在の医療をもつてしまても、死に至る重症感染症なのだ。

麻疹ウイルスは非常に人にうつりやすい。特に免疫がない小児では、ほぼ100%感染する。毎年、世界では何と2000万人以上が発症し、死者が34・5万人（2005年）と推定。そのほとんどが、発展途上国に住む子どもなのだ。

1000人中17人が死亡するという割合について、あなたが住む町でこんな状況になった場合、いかがだろくか。

韓国で流行ゼロ達成

このたび、隣の韓国で、素晴らしい達成がなされた。麻疹の国内流行をゼロに抑える「排除」に成功し、世界保健機関（WHO）を通じて、国際的に発表されたのだ。

韓国では2000-2001年に麻疹が大流行し、約5万5000人が発病し7人が死亡した。そこで、同政府は5年で流行をゼロにするという国家計画を策定。小学校入学前に2回のワクチン接種を済ませ、患者全例を把握し対策に取り

組んだ。その結果、ワクチン接種率は、以前が39%だったが、2回接種終了児が95%を超えるレベルに。国外からの「輸入」は僅かにみられるが、人口100万人に対し患者数1人未満が継続中。専門家の会議で「国内流行はゼロと認められる」と結論づけられた。

快挙の理由は何だろうか？ 政府が麻疹対策に人員と予算を振り分け『韓国は実行する』と内外に宣言。その進展状況もオープンにしたのが一因という。以前は、日本も韓国も共通の悩みだったが、本気で取り組んだ韓国に、あつという間に追い抜かれたのだ。

今後、わが国でも麻疹対策の委員会を発足させ、中長期的な計画が不可欠と言われている。

諸外国でワクチンが国策

世界の国々で、医療行政の重要なポイントは、乳児や小児に対するワクチン接種である。昨年訪れたアルゼンチンの厚生環境省でも、ワクチン対策に力を注いでいた（図1、2）。図2は風疹（英語でRubeolla、スペイン語でRubeola）に関するポスターだ。

また、今までに私が医療視察したインドネシアやベトナム、ラオスなど、いずれの国でも、小児のワクチンの普及が大目標となつていた。マレーシアでは「母と子の健康（Maternal Child Health, MCH）」の教育活動が精力的に継続中だ。そして、エジプトにおいて

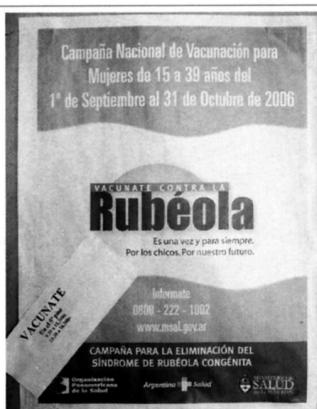


図1



図2

も、母子ケアと乳幼児に対するワクチン接種が国家戦略となっていた。医療スタッフが患者教育に邁進する姿が印象的だったのを思い出す(図3、4)。

日本の状況は

歴史を振り返ってみよう。



図3

我が国ではかつて、感染症で子供が命を落とすことが多かった。そのためワクチンの普及に力が注がれ、小児が感染症で死亡する事例がほとんど消失したのである。これは、世界に誇ることができる、素晴らしい成果なのだ。

しかし、その後、ワクチ

ンに対する認識が変わつてくることに。ワクチンが全般的に効果的な状況がしばらく続いた。すると、小児が運良く病気に罹らず無事に過ごせたという、目に見えないプラスの効果が、人々には感じられず、把握しにくいものとなつた。逆に、プラスの面よりも、稀に起こるアレルギーなどのマイナスのニュースが報道されがちとなつてしまふ。その結果、親の判断や他の事情で、接種しなかつたり忘れてしまつたりする事例も少なくない。

実は、流行を断ち切るには、ワクチン接種率が95%

%以上である必要がある。ほとんどすべての小児に接種してこそ、効果が出てくるものなのだ。

小児のワクチン

小児に関して、ワクチン

(予防接種)について、概要を説明させていただく。

現在、主なものを列挙してみよう。



図4

- DPT三種混合(ジフテリア・百日咳・破傷風)

- ・ポリオ

- ・麻疹(はしか)

- ・風疹

などがあり、これにBCG(結核)や日本脳炎が加わる。生まれた年度によつても異なり、細かな点が改正されたりしているので、保健所などで詳細を確認をお願いしたい。

成り立ったと推測される。

成人・高年のワクチン

成人から高齢者については、インフルエンザのワクチンが知られている。あなたは冬期にワクチンを打っているだろうか。

そういえば、2006年冬から2007年春にかけ、

大きなインフルエンザの流行は日本でみられなかつた。その一因は、ワクチン接種の成果であろう。おそらく、多くの人々は、大流行がなかったことやワクチンの効果に、気付いていないものと思われる。

どれほど、インフルエンザワクチンに効果があるのだろうか。おおむね、8割に効果があるとされる。わかりやすい例で説明してみた。あなたの目の前に、インフルエンザで苦しんでいる人が100人いると仮定しよう。彼らはワクチンを打つていなかつた。もし、あらかじめワクチンを打つていれば、80人は罹らなかつたハズ。そして、20人は罹るのであるが、その程度は軽くあまり苦しまなかつたと推測される。

図5は、ニュージーランドの医療機関で行われるワクチン接種の様子を描いたイラスト。

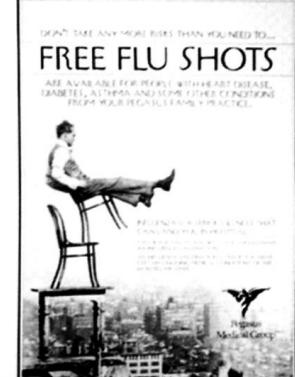


図5

(板東浩、ばんどうひろし、医学博士、糖尿病専門医、ピアニスト)